「4 月度研修会/先端研」報告書

修習技術者支援実行委員会　委員補佐
笠松　功　　修習技術者(農業部門)

１．研修会概要

日　時　平成 26 年 4 月 12 日（土）
13:00～19:00
主　催　公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援実行委員会
会　場　日本技術士会葺手第二ビル 5 階

２．研修会の内容

開会挨拶 修習技術者支援実行委員会 委員長	13:00～13:10 神下　栄
講演①　「わかりやすい技術文書の書き方」 ㈲　ジェイタプコ 技術士(建設)	13:10～14:40 森谷　仁氏
講演②　体験型「アイスブレーク」から発展する自己表現能力 ㈱　環境技研コンサルタント 技術士　(衛生工学・建設・総監)	14:50～16:20 石田　佳子氏
先端複合技術研究発表会	16:30～17:10
情報交流会(懇親会)	17:30～19:00

３．研修会の参加者

研修会の参加者は 44 名であり、研修会課題が「業務遂行能力」であり、様々な部門及び年齢構成であった。また、参加するきっかけを図-1、参加動機を図-2 に示す。
(複数回答あり)

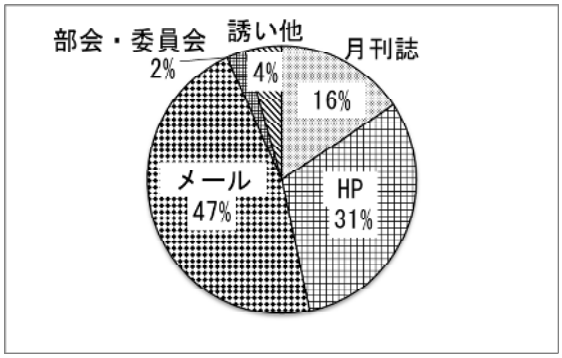

図-1　参加するきっかけ

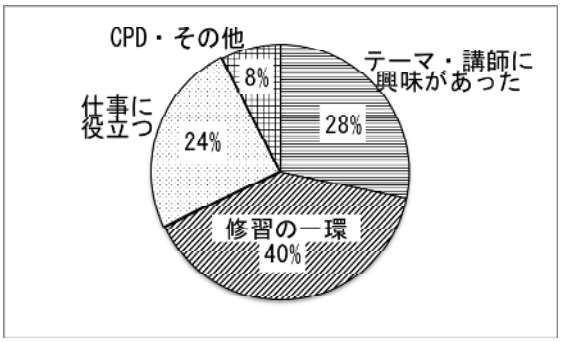

図-2　参加動機

４．研修会状況について

当月の研修会課題は、「業務遂行能力」であり、テーマは「コミュニケーション研修会〔コミュニケーション能力、企画・設計、問題発見・解決能力〕」であった。

日々の業務を円滑に行うために欠かせない文書作成・コミュニケーション力を身に付ける時間となった。

写真 1:研修会の状況

◆　講演①について

森谷氏の講演は、書き手と読み手の双方の視点からによる、わかりやすい技術文書の書き方であった。

技術文書を書く際には読み手に対し、内容が明確に伝わるための 3 原則『書き手と読み手の違い』・『技術文書の構成を考える』・『内容を明確に伝えるための書き方を考える』を、森谷氏の経験を交えながら示された。

わかりやすい技術文書はすぐに書けるものではない。そのため、読み手の立場に立つことや、業務報告書等作成を日々重ねることの重要性を、森谷氏は講演を通じて説かれた。

写真 2: 森谷氏の講演

♦ **講演②について**

石田氏の講演は、コミュニケーションの必要性を、技術者の立場から示すものであった。

『アイスブレーク』実践ということで、参加者同士で自己紹介や、出身地の特産品をヒントにして北から出身地順に並ぶことに挑戦した。良いコミュニケーションのためには、豊富な話題と自分の意見を持つことを実感する機会となった。

最後に石田氏は、技術は人を幸福にするためのツールであることから、正しく情報を社会に発信し、次世代へ技術を継承していくためにも、コミュニケーションが大切であることを示された。

写真 3: 石田氏の講演

写真 4:アイスブレーク実践

５．先端複合技術研究発表会

先端複合技術研究発表会では、修習技術者 1 名（阿部修一氏）が発表をされた。

阿部氏(電気電子部門)は、「ワイヤレス計装の開発」について発表された。

ワイヤレス計装とは、医薬品製造施設の従来の計装工事に変わり、製造施設を早期に稼働させるための新しい技術ということである。

この阿部氏の発表について、研修会講師の森谷氏による、わかりやすい技術文書の視点から公開個別指導が行われた。阿部氏だけではなく、他の参加者にも大変貴重で有意義な時間となった。

６．情報交流会

研修会終了後に情報交流会を行った。講師の森谷氏も参加し、部門を超えた交流により、明るく有意義な時間となった。

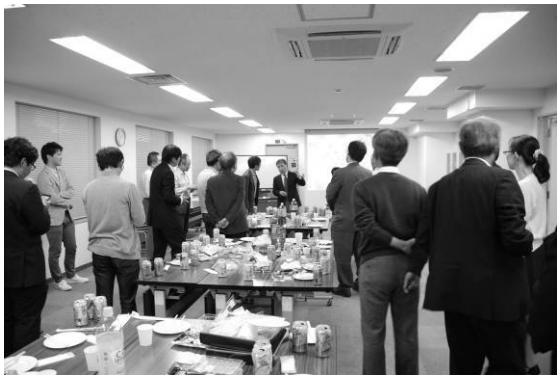

写真 5: 情報交流会の様子

以上